

東京未来大学内部質保証に関する方針

東京未来大学（以下「本学」とする。）は、母体である三幸学園が定める教育理念である「技能と心の調和」を受け継いで大学の教育理念として定め、「教育・研究・社会貢献機能を通じて、人を活かし、世の中の困難を希望に変える」ことをミッション（使命）とし、「高度な専門的知識・技能、人間性豊かな心、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材を養成する」ことを教育の目的としている。また、学園全体のビジョン（未来像）に沿って、「教育・研究・社会貢献機能を通じて、人の未来を、日本をそして世界を明るく元気にする」というビジョンの実現を目指す。

上記の実現に向けては、内部質保証システムを恒常的に機能させていくことが必要となる。このため以下の通り方針を定める。

内部質保証体制の構築

- (1) 内部質保証システムを恒常的に機能させるため、東京未来大学自己点検・評価・改善委員会を設置する。
- (2) 同委員会は、学長を委員長として、全学の自己点検・評価・改善活動を統括・運営する。
- (3) 同委員会の下で、大学戦略会議、全学教授会、各学部教授会、各種委員会、センターは、恒常的に点検・評価、これに基づく改善・改革作業を行う。
- (4) 教育研究活動について第三者による客観的な意見を聴取するため、有識者による外部評価員を委嘱する。

内部質保証システム

- (1) 学長は中長期計画を策定し、これに基づき全学の内部質保証を推進する。
- (2) 各委員会・センター、学部（学科・専攻）は、年度を取組計画と達成評価基準を策定し、自己点検・評価・改善委員会に提出するとともに、計画達成に向けて積極的に改善活動を行い、年度末には計画達成度を自己評価し同委員会に提出する。自己評価結果は翌年度を取組計画に反映させ、PDCA サイクルに基づいた活動を継続する。
- (3) エビデンスに基づく内部質保証を推進するため、各委員会・センター、エンrollment・マネジメント（EM）局は、内部質保証に資する各種教学データを収集する。インスティテューショナル・リサーチ（IR）センターは、これを分析、データベース化するとともに、改善・改革に向けた情報を自己点検・評価・改善委員会に提供する。
- (4) 自己点検・評価・改善活動の結果は、毎年度の報告書として刊行するほか、適切な方法で公表する。
- (5) 学長は、自己点検・評価・改善委員会がまとめた自己点検・評価・改善活動の結果を十分に尊重し、学内の教育研究活動の一層の向上を図り、改善への取組みに努める。
- (6) 本学を構成するものは、個人たると組織たるとを問わず、自己点検・評価の結果をふまえ、積極的にその結果を活用して、教育研究活動の向上を図り、教育研究環境の整備充実を期し、大学の管理運営の改善に資するよう努める。